

### 加温ハウスモモ栽培における若木の摘心による枝梢管理法

モモの加温ハウス栽培において、樹冠内部の新梢を4月から6月にかけて2回摘心することにより、その伸長や基部の肥大を抑えることができる。1回目の摘心は、新梢30cm伸長時に基部より5節目で処理し、2回目の摘心は、6月上旬に副梢発生の下節に戻って処理する。

農業研究センター球磨農業研究所(担当者:春崎聖一)

#### 研究のねらい

モモの樹冠内部にある、主枝・亜主枝等の上部から発生した新梢は、徒長し強大となるため、樹冠先端部が弱りやすい。また枝梢が過繁茂になりやすい加温ハウス栽培では、新梢管理として摘心が不可欠であるが労力がかかる。そこで、樹冠内部から発生した強勢な新梢を効率的に摘心する方法を開発することにより、その伸長や肥大を抑制し、主枝先端部の伸長促進を図る。

#### 研究の成果

1. 樹冠内部に発生した新梢の1回目(4月下旬~5月中旬)の摘心を、30cm伸長時に基部から5節目で行うことで、新梢の伸長や基部の肥大が抑えられ、主枝先端の伸長が良くなる(図1, 2, 表1)。
2. 1回目の摘心後に伸びた新梢(副梢)の2回目(6月上旬)の摘心を、副梢発生部位のすぐ下の節で行うことで、新梢(副梢)の伸長や基部の肥大が抑えられる(図1, 3, 表2)。

#### 普及上の留意点

1. 樹勢が弱い樹での摘心の多用は、樹勢衰弱の原因となるため、控えめにするか、行わない。
2. 6月中旬以降の摘心は、花芽分化を阻害するので行わない。
3. 試験樹には、1月下旬からビニール被覆、加温を開始した「日川白鳳」を供試した。

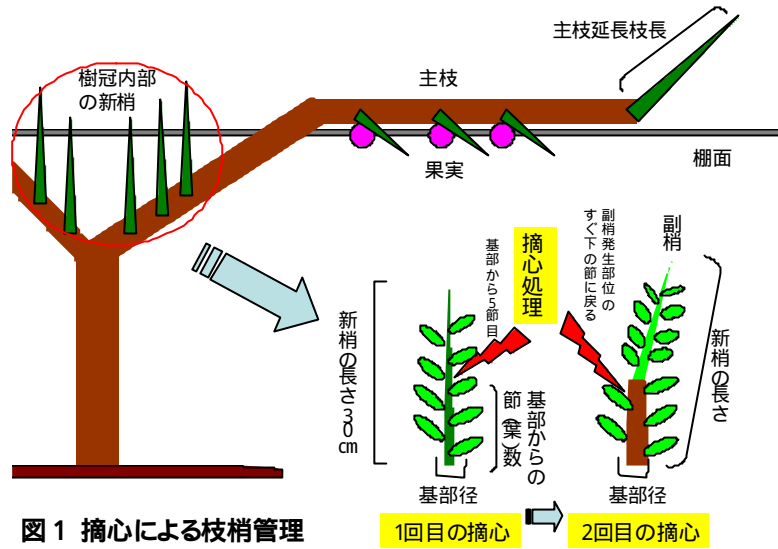


図1 摘心による枝梢管理

表1 1回目の摘心時期の違いによる新梢の生育への影響

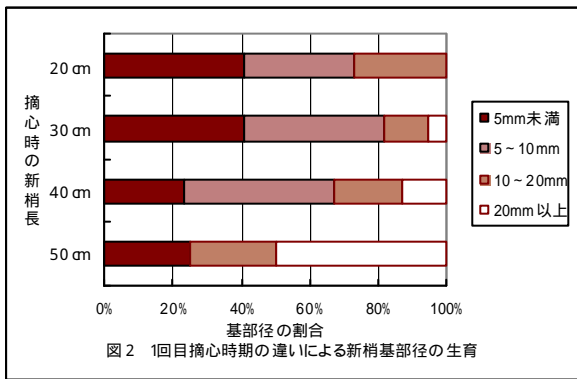


図2 1回目摘心時期の違いによる新梢基部径の生育

処理時期	新梢の長さ (cm)	発生した副梢数 (本)	主枝延長枝長 (cm)
20cm伸長時	62	0.93	95
30cm伸長時	49	0.79	118
40cm伸長時	71	1.00	108
50cm伸長時	106	1.00	91

注) 試験区ごとの新梢伸長時に基部5節を残して摘心し(1回目)、その後副梢が20cm以上伸長した新梢については、副梢を1本に整理し、副梢や副々梢の長さが20cm程度になるように摘心を繰り返した。生育の調査は当年の11月に実施(図2、表1)。調査樹は5年生「日川白鳳」(2004年)。

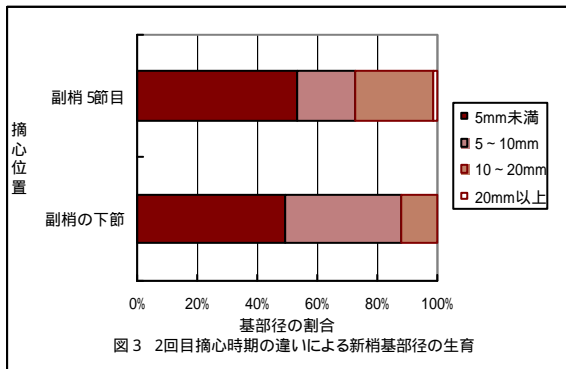


図3 2回目摘心時期の違いによる新梢基部径の生育

表2 2回目の摘心処理の違いによる新梢の生育への影響

摘心位置	新梢の長さ (cm)	発生した副梢数 (本)
副梢5節目	49	1.21
副梢の下節	27	0.58

注) 新梢20~30cm伸長時に基部5節を残して(1回目)、6月上旬に試験区設定のとおり(2回目)摘心した。生育の調査は当年の11月に実施(図3、表2)。調査樹は6年生「日川白鳳」(2005年)。